

九工大未来テラスが開所します

九州工業大学

副学長（イノベーション本部担当） 福本 幸弘



建物と環境のデザイン

九工大未来テラスは、地上4階建ての建物で、GYMLABO（ジムラボ）を整備した際と同様に、工学研究院建設社会工学研究系の教員及び学生のご協力によりデザインされました。各階ごとに異なる基調色、建物内外の連続的な空間や大小様々な個室、周囲には芝生や雨水を有効利用する機能を備えたランドスケープが広がる美しい空間となっております。建物玄関には、旧材料棟外壁でも使用されたタイルで作られた入居者案内パネルが設置され、来所者を出迎えます。

社会実装拠点機能

九工大未来テラスは、九州工業大学がビジョン2040で掲げる「世界にインパクトを与えるイノベーション創出大学」に向けて整備する、第3の社会実装拠点施設です。産学

官交流とアイデア創出の場であるGYMLABO、製品試作等の場である未来デザインスタジオに続き、社会実装・スタートアップ創出の中核的施設として、一気通貫の社会実装支援の司令塔機能が集積します。

九工大未来テラスの全貌

九工大未来テラスに入館すると、最初に目に入るのが、広く開放的なフリースペース「ミライホール」です。ここでは、スタートアップに取り組む研究者や学生が、交流しながら事業活動に取り組むことができます。30以上の企業を集約できる集合ポストも設置しており、多数のスタートアップが登記し、九工大未来テラスを所在地とすることが可能です。

2階と3階は、九州工業大学の社会実装支援の本部機能が集約されている空間です。広いオフィス空間に、研究支援、産学連携、知財支援や社会連携を所掌するイノベーション本部（産学イノベーションセンター、研究企画課、ソーシャルコミュニ



ケーション課）と、社会実装支援を所掌する社会実装本部（未来思考実証センター）が配置されています。また、九州工業大学と連携する大学・研究機関等が入居可能なオフィススペースや、多数の会議室を備えており、シアター型会議室など、近年のリモート会議増加などに対応した先進的な会議室も備えています。4階は、インキュベーション施設となっており、大学発スタートアップや九州工業大学と産学連携を行っている企業等が大小の個室に入居可能となっています（入居は有料）。

九州工業大学では、九工大未来テラスを中核施設として、J-PEAKS事業や九州・沖縄発スタートアップ・エコシステム創出を目指すPARKS事業とのシナジーにより、社会実装の加速、スタートアップ創出を進めてまいります。



国の補助金により整備

令和7年11月に戸畑キャンパスに新たな施設「九工大未来テラス」がオープンします。この施設は、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択（令和5年4月21日）され、10億円の国の補助金により建設されました。この事業は、大学の強みや特色ある研究、社会実装の拠点等を核とした研究力向上に必要な施設を整備するもので、全国で30大学が採択されました。

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) に採択されました

九州工業大学

理事(研究、産学連携、経営戦略担当)・副学長

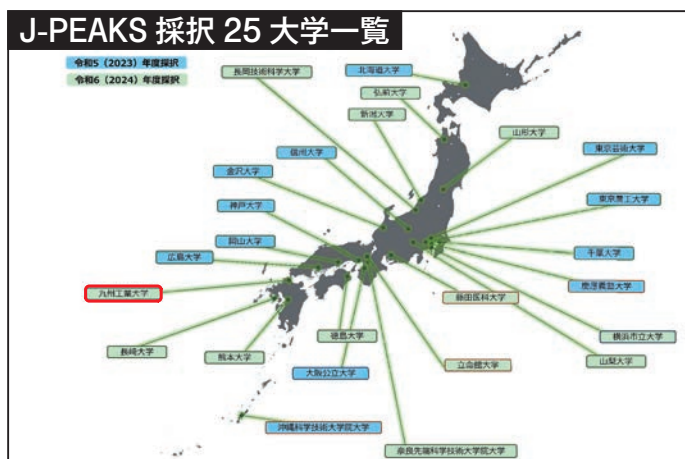
中藤 良久

25大学のひとつに選ばれました

九州工業大学は、文部科学省の令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」に採択 (令和7年1月24日) されました。本事業は、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学に対し、その強みや特色のある研究力を核とした経営戦略の下、国内外の他大学等との連携を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速により研究力強化を図る環境整備を支援するものです。

J-PEAKS 概要

日本全体の研究力を向上させ、新たな価値創造を促進していくために、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進する事業で、令和5～6年度に全国で計25大学が採択されました。



申請・採択状況

令和6年度	13 大学採択 / 申請 65件
令和5年度	12 大学採択 / 申請 69件
計	25 大学採択 / 申請 134件

【主な KPI】

- ・10年間でスタートアップ 120社創出
- ・外部資金比率 30%の達成

本学の J-PEAKS 事業の概要

九州工業大学は10年後のビジョンとして、学術界から創出される革新的な技術の社会実装を実現するイノベーション創出大学モデルを構築することを掲げています。このビジョンの実現に向けて、ディープテックシーズを社会実装可能な技術に昇華させる仕組み・体制を整備し、国内外に開放することで、スタートアップ創出や技術移転等を通して学術界から産業界に研究成果を橋渡しすることが可能な世界的な社会実装拠点を目指します。

本事業を活用し、経営機能強化、基盤的な研究力強化、社会実装推進体制・環境の整備、社会実装を担う博士人材などの育成を進め、イノベーション創出大学としての好循環モデルの強化を一層促進してまいります。

■連携大学・参画機関 (順不同)

【連携】 北九州市立大学、長崎大学
【参画】 東京大学、東京工業大学 (現東京科学大学)、室蘭工業大学、九州大学、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、マレーシアプトラ

大学、キングモンクット大学北バンコク校、台湾科学技術大学、ニューヨーク市立大学、サピエンツァ大学、ロレーヌ大学

■事業期間

5年間 令和7年度 (予定)

■取組内容の概要

戦略① 大学経営改革

短期・中長期ビジョンを連動させた大学経営改革の実現とともに、産業界のスピードに対応可能な経営の実現、外部資金増と戦略的投資による資金循環モデルを構築。

戦略② 社会実装力強化

未来思考実証センターを核にディープテックの社会実装を推進。革新的学術アイデアを社会実装可能な革新的技術に昇華させるための実務機能を集約。

戦略③ 先端領域の環境整備

地球規模の問題解決や社会変革につながる研究を核に国際卓越拠点として展開。第一弾として、宇宙 (超小型人工衛星、ロボット (水中ロボット)、通信 (極限環境通信) による「極限環境ロボット」を拠点化。また、機関の垣根を超えたオープンファシリティーセンター構想を推進。

戦略④人材育成強化

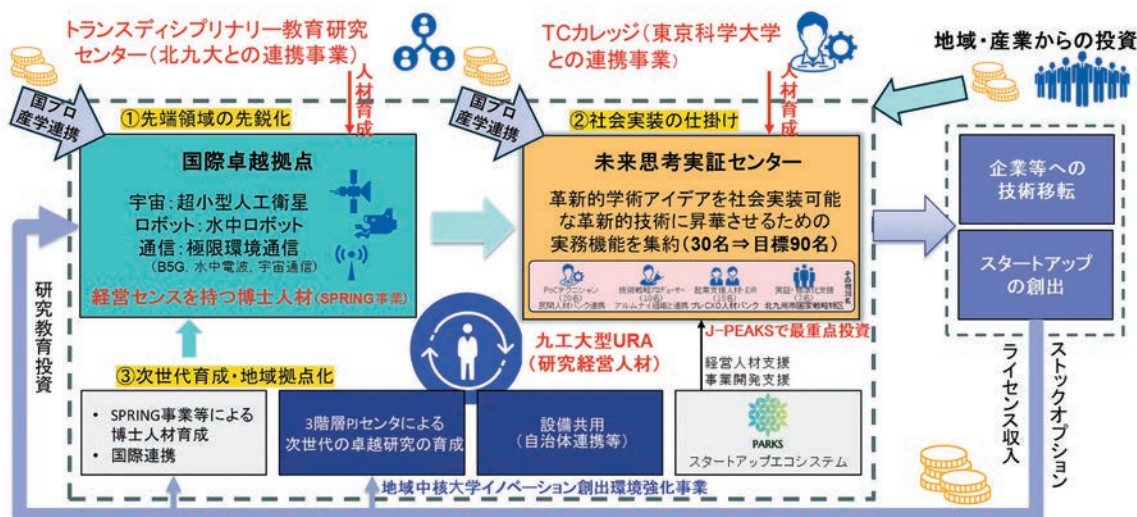
社会実装に不可欠な人材を集積させるとともに経営の分かる博士人材を育成。教職員・博士学生のマネジメント力・社会実装力を強化するとともに、社会科学とテクノロジーの融合が可能なトランジションマネジメント人材を育成。

本年11月には、スタートアップ支援・社会実装拠点として「九工大未来テラス」を開設、その実行部隊である「未来思考実証センター」に実務機能を集約し、本格的に稼働を開始しました。

未来思考実証センターでは、革新的原理を基にしたPoC開発、実証実験、それを活用したサービスモデル構築に加え、それらを社会実装可能とするためのルール整備（規制対応や標準化）までをシームレスに支援し、水中から宇宙まで地球規模で展開可能なロボット技術を皮切りに、本学が世界的に強みを持つ先端技術群の社会実装の推進を目指します。

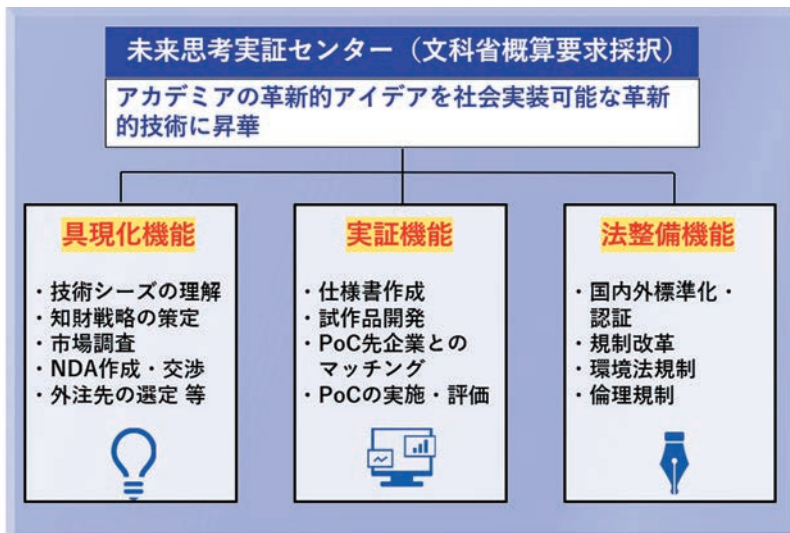
イノベーション創出大学モデルの構築

- 【金】 研究の社会実装で研究資金を獲得し、資金を循環
- 【人】 研究開発マネジメント人材、経営のわかる博士人材の育成・輩出
- 【物】 組織の垣根を超えた先端領域を支える研究設備の整備



資金循環モデルの構築: 研究の社会実装→資金獲得→研究投資(装置、人材)→卓越領域の拠点化

未来思考実証センターでの社会実装の推進



- 九工大が世界的に強みを持つ先端技術群の社会実装を推進
- 革新的新原理を基にした社会ニーズ起点のPoC開発
 - 実証実験とサービスモデル構築
 - 社会実装を可能とするためのルール整備(規制対応や標準化)



九工大未来テラス（戸畑キャンパス内）